

するに至りしと雖、未だ固とより唐に對して勢を加ふる能はざりしが、天寶の末、唐は安祿山の叛に遭ひて國運瓦解し、遂に乾元元年（七五八年）使を派し、新たに北方に興りし回鶻の勢力に依頼し、以て其の社稷を保つゝの止む無きに至るや、兩者の間に於ける優劣の位置は、こゝに至りて忽然として所を變へ、從來突厥が支那に對して加へたるにも過ぎし壓迫は、新たに回鶻に依りて唐に加へらるゝ事となれり。磨延賧が唐に對して軍事上の關係を開くに至りしは、早くも肅宗の靈武に即位せし至徳元載に在り、新唐書回鶻傳に依れば

肅宗即位、使者（回鶻之使者）來請助討祿山、帝詔燉煌郡王承寀、與約、而令僕固懷恩送王、因召其兵、可汗喜、以可敦妹爲女、妻承寀、遣渠領來請和親、帝欲固其心、即封虜女、爲毗伽公主、於是可汗自將、與朔方節度使郭子儀合、討同羅諸蕃、破之河上

と記せり、此の安祿山を征伐せんが爲に援を申し出でしは、舊唐書本紀によれば至徳元年（七五六年）八月のことにして、實に肅宗即位の翌月なり、而して承寀が僕固懷恩と共に回鶻に使し、兵を請ひたるは、同紀に其の翌九月と見ゆ、當時靈武の兵衆寡弱にして、外援を希ふこと頗る切なりし有様を想見するに足るべし。

郭子儀が回鶻と共に同羅部及び其の他の諸蕃を撃破せしは、此の年十一月のことにして、舊唐書郭子儀傳に、「至徳元年十一月、賊將阿史那從禮以同羅僕骨五千騎出塞、誘河曲九府六胡州部落數萬、欲迫行在、子儀典廻紇首領葛邏支、往擊敗之、斬獲數萬、河曲平定」と記し、新書同傳も亦之に従へるが、兩唐書本紀も、此の時に於る回鶻の來援を記して、舊書には「十一月……戊子廻紇引軍來赴難、與郭子儀同破賊黨同羅部三千餘衆於河上」とし、新書には簡單に「十一月……郭子儀率回紇、及安祿山戰河上敗之」とせり。（七〇）